

子どもたちに伝えたこと

「この次の津波で、君たちはきっと避難するだろう。
でも、君たちのお母さんは、そのときどうするだろう？」



Disaster Social Engineering Laboratory, Gunma Univ.

33

子どもたちに伝えたこと

「君たちのお母さんに、『僕たち、私
たちは避難するから、お母さんも必
ず避難してね』と何度も伝えて欲しい。」



保護者に伝えたこと

「きっとお子さんが何度も『避難して
ね』とお願いに来るだろう。
しっかり子どもたちの訴えを受けと
め、津波のときにはお互い避難する
ことを信じ合えるまで話して欲しい」



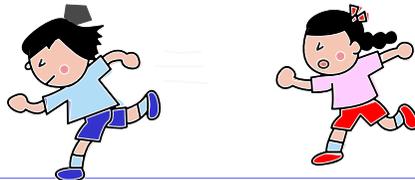
Disaster Social Engineering Laboratory, Gunma Univ.

34

「津波てんでんこ」

地震があったら、
家族のことさえ気にせず、てんでばらばらに、
自分の命を守るために一人で直ぐに避難せよ。
一家全滅、共倒れになることを防げ。

三陸地方に残る、津波から子孫を残すための知恵



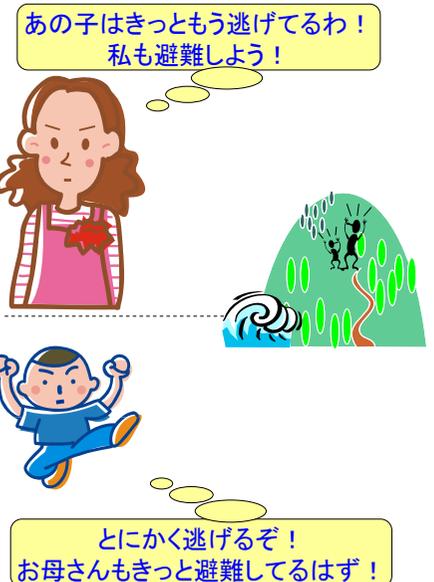
Disaster Social Engineering Laboratory, Gunma Univ.

35

てんでんこの意味を見つめ直す

津波てんでんこの本質

- ◎自らの命に責任を持つこと
- ◎家族との信頼関係を築くこと



9

Disaster Social Engineering Laboratory, Gunma Univ.

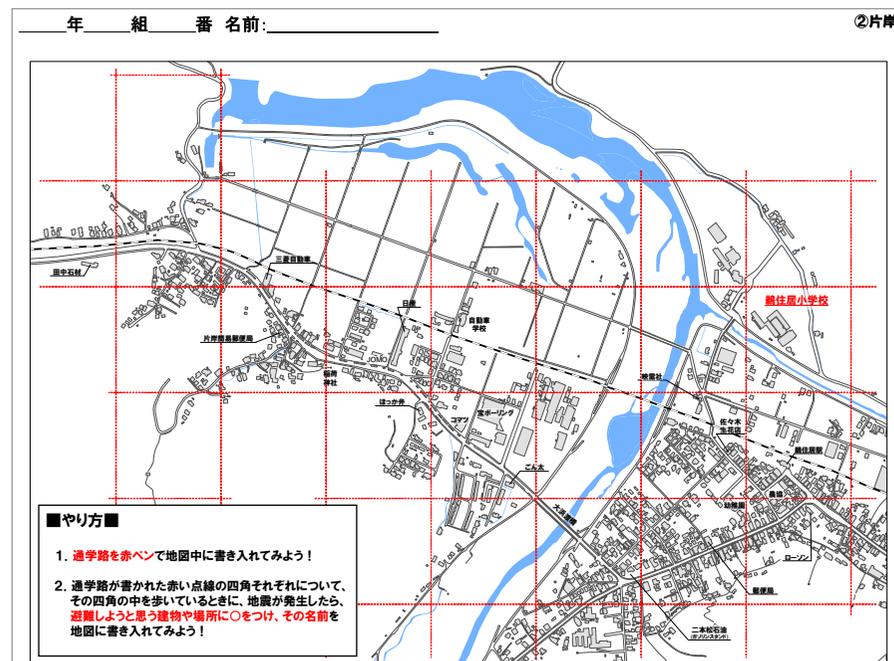
36

親子で参加する防災マップづくり

- 親と通学路を歩き、津波で危険な箇所を確認する
- ➡ 完成させた地図で家族と津波避難方法を相談する



子どもの防災教育を通じて、
その親も津波防災について考えるようになる



地域住民を巻き込んだ防災教育

通学・帰宅途中で地震が発生した場合に助けを求め
「こども津波ひなんの家」を親子で決めた承してもらおう。

→地域住民も避難せざるを得なくなる！



鶴住居地区では、83世帯が参加(H22年3月時点)

教員を対象とした津波防災講演会

まずは「教える側」の意識啓発から始め、
各学校に理解者をつくり、
今後の取り組みに協力してくれる先生を募った



津波防災教育カリキュラムの作成

完成した『津波防災教育のための手引き』



書籍版

DVD版 (webで公開中)

津波防災教育カリキュラムの作成

津波防災のための授業を計画しなくてもいいように、授業の中で津波に関する話をする事ができる授業内容を毎学年全教科から抽出した

教科	単元	津波と関連する内容
社会	暮らしと地域生活について 1. 人々の暮らしとまちづくり	・災害時の地域のはたらきとして、被災者支援を教える。過去の震災の被害や復興までの道のりを教える。 ・地域の防災まつりや活動を紹介する。 ・過去の津波被害を教える。
理科	・ 大地のつくりと変化 ・ 地層の厚さによる大地の変化 その他	・ 地震のしくみと地層の様子を教える。 ・ 地層の厚さによる津波が来るということを確認する。 ・ 地震時に地震が起きた場合に対応する事柄とその予防や応急処置の方法を教える。
国語	・ 文壇の発展 ・ 文壇の発展 その他	・ 災害時の生活と文化に、報告・記録が作られたことによる、その報告の様子を教える。 ・ 報告として、津波に関する自分の考えをまとめる、自分の考えを表現しよう
算数	・ 算数の基礎 ・ 算数の基礎	・ 算数の基礎を例にした問題をつくる。「津波は陸上では、秒速〇メートルです。海岸から〇メートル離れたA君の家まで、津波は何秒できますか？」
道徳	・ 道徳の基礎 ・ 道徳の基礎	・ 被災者から話を聞いたとき、自分ができることを考える。 ・ 自分ができることを考えてみよう

5 単位あたりの大きさ比べ方を考えよう
2. 速さの表し方

津波の速さを例にした問題をつくる。
「津波は陸上では、秒速〇メートルです。海岸から〇メートル離れたA君の家まで、津波は何秒できますか？」

「助けられる人」から「助ける人」へ

小中学校合同で避難訓練を実施
中学生が、低学年や怪我をした人の避難を支援する



中学生が避難を開始することで、地域住民にとっての率先避難者になる



リヤカーを使って、避難を支援

「助けられる人」から「助ける人」へ

学んだ知識を地域に伝えるー防災意識啓発DVDの作成

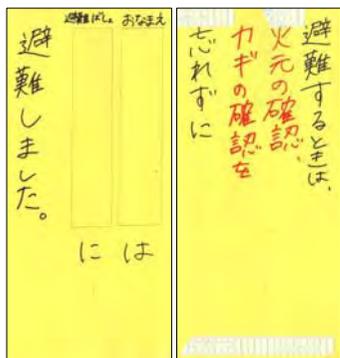


“てんでんこ”を題材として、

いざというときにちゃんと避難するために、日頃から備えておくべきことをまとめている

「助けられる人」から「助ける人」へ

安否札と防災マップを作成し、地域の高齢者宅に配布



全て生徒たちの手書き
(右:表/左:裏)

高齢者宅を生徒が訪問し、
安否札の使い方や避難方法を説明

ぼうさい甲子園 優秀賞を受賞
(2009年度・2010年度の2年連続)



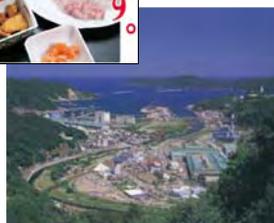
今回の津波でも、
安否札が活用された

釜石に住むためのお作法としての津波防災

自然の恵みを享受する=自然の災いに近づく



釜石を食す。



災いをやり過ごす知恵(津波避難)を持つことは、
豊かな自然の中で生活するための条件

これから求められる防災
「人が死なない防災」